

風土記の丘の花だより²²¹

今、そしてこれから見られる植物(2024年2月3日)

「ああ、もう節分かあ、立春かあ」と言ってもまだまだ寒いですよ。防寒対策はぬかりなく。お互い体調管理に留意しましょう。梅林では紅梅がそろそろ色あせてきましたが、白梅はキレイです。今年は早く咲いたかと思いましたが、記録を見ると、去年とあまり変わりません。



さて、いつもあまり注目されないのので、今回はシダを一番に紹介したいと思います。イノモトソウです。イノモトソウ科イノモトソウです。「なんとかシダ」という名前ではありませんが、ちゃんとした(?)シダです。葉には2つの形があり、細長い方が胞子を付ける、「胞子葉」(左上)、幅の広い方が胞子を付けない「栄養葉」(右下)と言います。昔から薬草として用いられ、利尿、肩こり、関節痛など多くの薬効があるようです。責任は持てませんが、興味のある方はお試しください。



「春近し」となれば、これを紹介しない訳にはいきません。ご存じ「ふきのとう」です。ふきのとうはキク科のフキのツボミです。雄花と雌花があって、花の時期になるとはっきりわかります。(ふきのとうを見るだけで分かる人は「ツウ」でしょうね。)野菜として食べている部分はフキの茎ではなく、葉の茎「葉柄・ようへい」です。フキもふきのとうも、どちらもチラ苦いところが、大人好みですね。でもおいしいからといって、見つけ次第に採らないでくださいね。みんなで観察したいですからね。



この季節、風の無い晴れた朝は地上の熱が大気中に奪われる放射冷却がおこり、霜がおりることがよくあります。これはヨモギの若葉におりた霜です。冬の風物詩ですね。よもぎ餅(草餅とも言いますね)に使うのは、小さくて柔らかいこんな若葉がいいですね。子どもに摘ませると大きな古い葉もちぎって来るので、できた餅がスジだらけということがよくあります。上のふきのとうといい、このヨモギといい、自然のものの風味はいいですよ。



柳川家と船屋の間の山裾でヤマアイの花が咲いています。といっても、華やかな花ではありません。とても控えめな小さな花です。いつも「藍染めの藍ですか」と尋ねられますが、藍染めに用いる藍はタデ科、ヤマアイはトウダイグサ科の植物で、全くの別物です。藍染めに使う藍はアイタデとも呼ばれますが、それが伝わる前はこのヤマアイが染色に用いられていたようです。どんなにして染めて、どんな色に染まったのでしょうか。 松下